

みくに



みくに園芝桜

社会福祉法人 みくに園
障害者支援施設 みくに成人寮
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1
HP: <http://www. teshimamikunien. com>

わたしたち強い者は、強くない者の弱さ
を担うべきであり、自分の満足を求めるべ
きではありません。

(ローマの信徒への手紙 15章1節)

「目に見えない敵に立ち向かう」

理事長 高田安司

新年度を迎える。昨年は「令和」という輝かしい新たな年の幕開けだったが、今年の春は一変して新型コロナウイルスが全世界に感染し、蔓延している。

毎年のように自然災害や地震など、地球温暖化に伴う環境の変化がここ数年、顕著に現れてきている。さらに今回の新型コロナウイルスの感染拡大は、経済的にも「リーマン・ショック」以上の世界最大の未曾有の危機的状況にあるとも言われている。

治療薬の開発には世界の化学者の知恵の結集が必要とされているが、新薬の開発には1年以上かかる。

東京や大阪をはじめ全国的に非常事態宣言が出され、不要・不急の外出は控えるように。また換気の悪い密閉空間・多数が集まる密集場所・間近で会話や発声をする密接場面の3つの密を避け防止するように国から呼びかけられている。しかし、感染者の数は他県も含めて日々増加傾向にあり、都会から地方に人々が流れ、さらに感染の拡大が広がりつつある。

幾つかの県の障害者支援施設でも集団感染が認められ、何時、発生者が出てもおかしくない状況である。

四国地区障害者支援施設部会長の南氏によると、新型コロナへの対応を三段階、（1）地域での発生を認めていない状況（2）地域で発生しており、患者への入院勧告が行われている状況（3）地域で流行しており、患者への入院勧告が行われない状況の参考例が報告されている。

病院によっては医療崩壊が起こったり、病室もすでに満床の状態にある所もある。軽症の人は、各施設でとどまることがやむを得ない状況にある。

専門家の意見によるとコロナウイルスの感染が終息するにはまだ1年や2年かかるという学者もいる。

コロナウイルスの感染により、社会のしくみ、価値観が大きく変わりつつあるので、苦悩との葛藤の日々ではあるが、私どもの施設でも、職員一同、一丸となって目に見えない敵を施設に持ち込まないように、しなやかにそして様々な変化に対応しつつ、ゆるぎない強さをもって望んでゆきたい。

障害者虐待防止研修を受けて

2番館 水野重一郎

初めて障害者虐待防止研修に参加しました。虐待防止とは、3つの権利を守ることであると学びました。それは「安心」して生きる権利、「自信」を持って生きる権利、「自由」に生きる権利の3つです。つまり、虐待防止とは基本的人権を守ることに他なりません。虐待を見つけたら通報するのが義務なのだ、ということは研修中にも再三強調されていました。

一生懸命支援をしていても空回りしてしまい、虐待に繋がってしまうこともあります。グレーゾーンは虐待と言われていますが、不適切な支援だということに気付かないまま、グレーゾーンを白と思い込んでしまうこともあります。施設は外部との交流を持ち、風通しをよくしておくことが大切なのではないかと感じます。それにより、第三者から見て虐待と思われるような行為をしていないか、その支援の目的・意図をきちんと説明できるのか、自分がしている支援と向き合う時間が増えるのではないかでしょうか。同時に通報を受ける側の公的機関等も、通報を待つのではなく、施設へ出向いて利用者の様子を確認する機会を増やすことが虐待防止に繋がるのではないかと思いました。また、組織・環境・風土・人間関係など、支援内容だけでなく根本的な部分にも目を向け、問題があれば改善する努力をしていくことが重要だと感じました。

さらに、今回の研修のグループワークで印象に残ったことが2つありました。1つは月間目標見える化すること。職員会議などで決めた目標を記憶するだけでは、ふとした瞬間忘れてしまうこともあるので、各場所に目標を掲示することで隨時確認ができます。もう1つはパトロール習慣をつけること。離島にあるみくに園は外部との関わりが少ないのでないかと思われる所以、第三者の目として別棟の職員が見回りすれば良い点や悪い点が分かるのではないかと感じました。

研修で学んだことをしっかりと理解し、サービスを提供する自覚を持ちこれから仕事に励んでいきます。

<みくに園での取り組み>

園では虐待防止委員会を設け、各棟から職員を配置しています。委員会では、定期的な虐待防止研修やみくに園で働く職員に向けて虐待に対する意識調査のアンケートを行ってきました。虐待に対する考え方は職員によっても様々ですが、委員会としてできることをこれからも行い、利用者が安心して日々の生活を送れるように努めています。



<諦めなし!Part125> チョコっとお菓子作りに挑戦!

「今年は新しい職員にあげるわ」「私はまた大好きなあの人にあげよう」バレンタインの時期になると1番館の女性利用者は誰にチョコをあげるかという話題でもちきりになる。毎年同じ男性職員にあげる一途な人もいれば、女性職員にあげる人もいる。女性がメインになりがちなバレンタインを今年は1番館全体で楽しめないかと考えた。

そこで、利用者が自分の力でできる簡単なお菓子作りをすることにした。棒状のお菓子にミニシュークリームとマシュマロをさし、チョコペンやスプレーチョコでデコレーションをする。細かい作業が苦手な利用者も慎重な手つきで丁寧にチョコペンで模様を描いていく。ひとつひとつ模様の違う個性的なお菓子が完成了。間食の時間に紅茶と一緒に食べ、いつもとは一味違ったバレンタインをみんなで楽しんだ。利用者からの「チョコ美味しかったわ」という言葉で職員も企画して良かったと思える。利用者の嬉しそうな顔を見ると、次のイベントのアイデアが次々と浮かんでくるのであった。

(大西 記)



<諦めなし!Part126> 輝け〇さん!!

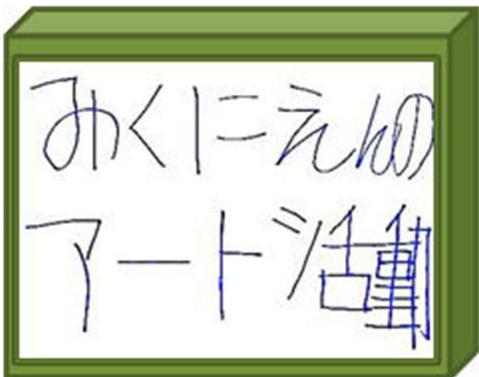


2番館の〇さんは職員や他の利用者との関わりが好きで、普段からよく話しかけてくる。朝や夕方にはわざわざ玄関まで来て、職員に元気よく挨拶をしてくれる。そんな人との関わりが好きな〇さんだが、職員との関わりのなかではいつも一步引いてしまっている姿が見られる。

「お手伝いがしたい」、「やってみたい」など思いはあるが、自分からは言い出せず、物陰から視線を送っていることがある。そんな時、声をかけると笑顔で「いいよ」とすぐに返事が返ってくる。〇さんには脱衣所に入浴の着替えを持っていく役割があるが、最近では他の利用者も手伝っているため、〇さんと個別で関わる時間が少なくなっていることが気になっていた。

どうすれば〇さんとの関わりが増えるのかを職員間で話し合い、職員と一緒に2番館の玄関掃除をすることにした。はじめは足元を履き続けながら、職員の様子を伺っているだけだったが、回数を重ねるごとに、自らすのこを持ち上げるなど、積極的に掃除に取り組むようになった。掃除が終わり「いつもありがとう、〇さんのお陰で綺麗になったよ」と感謝の言葉を伝えると、嬉しそうに笑顔を見せる。

玄関掃除をはじめてから、今まで以上に積極的に職員の手伝いをしてくれるようになったと感じる。みくに園の生活の中で少しでも自信を持って過ごすことができるよう、もっと〇さんが輝ける場面をつくっていきたい。(佐藤 記)



タイトル文字：繁朋宏

画用紙にクレヨンで何かのかたちを描くこと。布に刺繡をほどこすこと。木つ端にネジを締めていくこと。紙を選んで切り貼りすること…

アート活動の時間にメンバーの皆さんを取り組んでいることは、見る人によっては毎週同じことの繰り返しに見えるかもしれません。でも実はそうではなく、毎回毎回「そのときだからこそ表現できること」を積み重ねているのだということが、1年間活動のお手伝いをする中でわかつてきました。

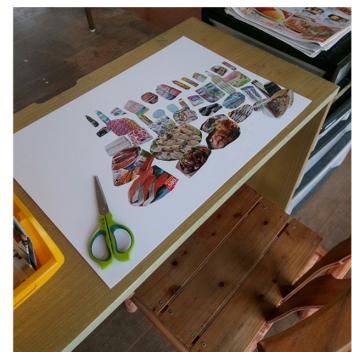
前回の活動日からの7日間に暮らしの中で感じた喜びや葛藤・体験したさまざまな出来事・人との関わり・昔からずっと大切に持っている記憶などが混じり合って、



一人ひとりの「今日の感覚」が形づくられます。アート活動の時間は、メンバーの皆さんを使い慣れた道具で、それぞれの安心できるやり方で、その「今日の感覚」をのびのびと表現する大切な場です。

今は活動がお休みですが、再開後はまたリラックスして過ごせる環境をつくり、新しいことへの興味や変化を欲する気持ちなども見逃さないよう、少しでも良いサポートを心がけたいと思います。

(吉野 記)



香川県共同募金会より助成をいただきました

この度香川県共同募金会より令和元年度N H K歳末たすけあい寄付金の助成をいただき、2番館に衣類乾燥機を設置しました。毎日自分達の使った配膳用のエプロンを乾かすのに役立てています。大切に使います。ありがとうございました。



花見

今年はコロナウイルスの影響でみんなで花見ができなかった為、各棟で花見弁当を食べ、個別に花見へ行きました。花より団子の利用者は花見弁当に舌鼓を打ち、笑顔があふれました。



- ＜お知らせ＞
- ・1番館主任柴田が、2020年5月から2021年5月までの1年間産前産後休業・育児休業を取得します。
 - ・茶道、メイク、手芸の活動が終了になりました。講師の方々、長い間ありがとうございました。

編集後記

暖かくなり、美しい花が咲き、散歩するのに一番よい季節にも関わらずコロナウイルスの流行で外出もできず、春休みの帰省も中止になるなど、今年は少し淋しい春になってしまいました。利用者の心のケアを大切にしながら、ウイルスを持ち込まない為にできることを、みくに園でもしっかりと取り組んでいきたいと思います。

*みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail:kgk03317@nifty.com FAX:0879-68-3920